

# 総合計画策定市民懇話会 < 第 2 回 > 議事概要

日時:平成 31 年 4 月 17 日(水)18:30 ~ 20:30

場所: 北広島市役所 3 階 3D 会議室

## 1 開会

事務局:(開会)

座長:(挨拶)

## 2 前回市民懇話会の振り返り

座長:(司会進行、資料 1 確認)

## 3 分野別での意見交換

事務局(資料 2、資料 3 説明)

### (1) 生活環境分野

座長:生活環境分野の部分で皆さんから御意見をいただきたい。

構成員:1 点目は公園の有効活用、2 点目はまち並みの形成。まず、公園の有効活用だが、非常に公園が多いが子どもの数が少なく、公園で遊んでいる子どもを見かけることが少ない。また、事故発生時の責任問題等で、遊具は縮小傾向にあるのではないか。子どもたちの発育や運動能力の醸成等を含め、子ども、親、ママ友等、公園を通じて、同世代、子ども同士、親同士が交流できる環境をつくれたら良い。

まち並みの形成について、緑が多いのは非常に良い。私自身は団地地区に住んでおり「さんぼまち」である。川があり、坂道が多く、歩いているだけで健康になるが、もう一工夫あると良い。例えば、当市の花はツツジ、樹木はカエデであり、それを少し多目に植える、あるいは、木々や鳥等の図と解説等を置き、自然に学習できるような仕掛け等があれば、もっと散歩したいという気持ちになるのではないか。

構成員:除雪、排雪の改善について、札幌市の住宅地では 1 シーズンに 5 回程で、北広島市に比べて少ないのではないか。そして、札幌市は、道路が狭いため除雪ではなく雪をならしているだけで、一切削っておらず、雪を持っていく場所がない。そのため、ならしていると春先にシャーベット状の雪が 30~40 センチの深さになり、車が埋まってしまう状況だ。北広島市は、そういった意味で言えば除雪が行き届いていると思うが、家の玄関先に除雪された雪が置いていかれるといった苦情が多いが、予算上に課題がある。住民が納得できる除雪体制が取れると良い。恵庭市は、全ての道路ではないが、大きな除雪車が通った後、すぐ後ろから小さなタイヤショベルで玄関先の雪を取り除いているが、予算規模が違うということだと思う。公園の有効活用も兼ね、例えば団地でいうと、大体 1 ブロックに 6~8 区画で班や町内会が形成され、8~10 ブロックに 1 区画の空き地を置くと、除雪した雪を堆積でき、住民の苦情がだいぶ減るのではないか。公園を副次的に有効活用するという意味では、

例えば冬の場合、雪の堆積場として除雪の経費を浮かせる使い方は有効である。

空き家の活用について、特に団地地区には賃貸や売却等もしていない空き家がある。町内会によっては、山村の限界集落のように回覧板を回せず、役員も同じ方が継続して務めている。回覧板が回せないため、コピーを1軒ずつ配っている町内会もある。例えば税金の優遇措置で、空き家の賃貸や売却を促す等していただければと思う。

構成員：遊水池の活用について、東の里地区に遊水池が今年度完成し、市民や市外の方も来られるような、集える場として有効活用が出来るよう工夫していただきたい。

空き家の活用について、今後管理をしていかないと、草や樹木が茂り放題となってしまう。

構成員：空き家について、団地地区の世代交代が起こっており、もう少し力を入れていただきたい。中には高齢化率が50%を超えている町内会もあり、世代交代が進むような施策を展開していただきたい。

また、公営住宅は大曲地区に無く、全体の計画の中でどういう検討になっているのか気になる。

除雪は、北広島市は取り組んでいると思っているが、消防等の緊急車両が通れるように確保していただきたい。交差点が極度に狭くなっている部分等もあり、気を付けていただければと思う。

構成員：今日、移動販売車の「おまかせ便カケル」の中を見せてもらったが、アイスやお米、ごみ袋も売っていた。移動販売となると価格が高くつくと思い販売員に尋ねてみたところ、食料品は店頭とほぼ同額とのことだった。高齢者の方にその点をしっかり伝えたと利用者も多くなるのではないかと話しており、宣伝が必要だ。

また、子育て支援に力を入れているが、お年寄りの方にも力を入れてほしいという声があり、年配の方が集えるような場所をつくってほしい。

北進町の団地はとてもきれいになったが、輝美町の団地はぼろぼろだ。手前は市営住宅なのか、入居数はどのくらいか。輝美町の団地は入居の募集をしていないのか。

事務局：北進町の団地はURで国に近い独立行政法人が運営している。入居数は9割くらいで出入りが激しい。輝美団地については、北海道営であり、現在新規募集はせずに、別棟が空いたら移動してもらっている状況である。

構成員：栄町の空き家の活用により、人口も増えてくると思う。特に駅の近くであれば札幌にも行きやすく、その点をPRすると人口が増えるのではないかと。

また、駅付近に魅力的な商業施設がないことで、学生が札幌に住んでいる。商業施設があればバイトもでき、大学生がバイトのために札幌に住む現状も変えられるのではないかと。

座長：「おまかせ便カケル」にある商品の値段については、とても安い「目玉商品」を1日1個設定すれば良い。

構成員：毎回目玉があり、今日の目玉はイチゴで400円台だ。

構成員：防犯の街灯の整備、ごみ、排雪の3点は町内会でも必ず問題になる。市にばかり頼らず、町内会や自治会は、自分たちで何とかしていかなければいけないが、市と町内会の担当する割合、連携を改善できたら良い。

若い方の増加、人口増について、子育て支援が充実してきた実感はあり、医療費も安く、集まる場所もあって、大曲の周りも若い世代が新しく家を建てたりリフォームしたりして入ってくる。新しい人がどんどん入ってくるということは、町内会の中でのコミュニケーションや世代間のやりとり等も難しくなっているということもある。新しい方たちは個人主義の方が多く、町内会には入らない。街灯の電気代や排雪、ごみステーションの維持等、町内会費で賄って管理していることも知らないままになっており、町内会は面倒くさく、回覧板も見なくてもどうでもいいという人達が増えれば、周知する方法が無くなっていく。市で広報等をつくってもらって回覧していても読んでおらず、こうした問題が周知されない。そして、一人一人が自分の問題として対応することにならず、これをどのように改善していくべきか。まちづくり等にお金をかけて何かを整備するだけではなく、人と人のつながりを市役所と町内会の力でどのように対策していくかを考える機会になると良い。

構成員：除排雪は、北海道の冬では大切な問題だ。個人でシーズン2万円の除排雪の契約をしているケースもある。そういう方にも何らかの補助等を増やしたほうが良い。住宅も増え、雪の行き場がない。安全、快適に移動できる道路の充実というのは、除排雪が大変重要だ。ヤマト運輸の運転手に、町内会の人負担して排雪をしていることを御存知か尋ねたら知らないという答えだった。その地域で営業しておられる業者の方々も、何らかの形で町内会に協力していただくよう努力をするべきだ。

ごみの減量、リサイクル意識の浸透については町内会で取り組んでいるが、資源ごみの回収を業者と契約し、月2回程度回収している。これは町内会の活動資金になっており、市は業者に売り渡した分の重量に対し補助金を出してくれるので、私共の町内会でも大体年間50万円位になる。その一部を40Lのごみ袋に還元しており、かなり関心が高くなっている。ただ協力してくださいというのではなく、町内会の協力をいただければごみ袋等の還元があることによって、つながりが出てくるのではないかと。

空き地、空き家の問題は市も対策を講じており、賃貸によって権利が発生し、その権利の制約もあるため慎重になると思う。専門的なアドバイスが必要で、相談室等を定期的に関き、周知していくことが大事かと思う。

構成員：西の里辺りに外国人が住んでいて、そのオーナーは日本人かどうか分からないが、外国人が住んでいる。ごみの分別が出来ず乱雑になっていた。バスでも、食べたものを下に置き、分別ができず座席の周りが汚い。

事務局：空き家については、大曲地区でもベトナム人等の外国人労働者が入っていて、そのような形の活用になっている。一番問題なのは地域のコミュニティーであり、企業も非常に苦労されている。これからもそういった問題が増えていくと考え、その対策を今行っている。

構成員：地域住民の理解を得ないと村八分みたいになってしまう。ごみ問題等、しっかりやってもらうように指導したほうが良い。

構成員：どこもその問題は抱えていると思う。特に町内会でそういう現象を起こしやすいのは、集合住宅と戸建ての方との間だ。アパートの住民は日中不在であり、回覧板はほとんど回らない。どこかで止まったきり行方不明になってしまうということはよく聞く。関心が薄れているのか。3~4年で引っ越してしまい、長いお付き合いができないことが多いが、子どもがいる家庭は、町内会に協力的で、親御さんにしても子どもの付き合いは大切にしたいので、子ども会の役員等にも協力していただいているという話は聞く。確かに様々な形でコミュニケーションを図る必要があるが、一番大事なのは、あまり感情的にならないこと、揉め事を起こさないように済ます方法を考えることだ。感情的にぶつかってしまうと、町内会等の自治会の場合は修復が難しい。

構成員：公共交通の充実について、北広島市内は2社が現在運行しているが、他に参入することはできないのか。

構成員：路線バスの場合は国の認可が必要であるが、貸切バス専門の場合は認可が不要で、そういった会社であれば参入も可能ではないか。

構成員：北広島市の公共交通の見直しがされているが、なかなか進まない。市がコンサルタントに調査を委託したというが、新規参入はできないのか。

事務局：現在2社が入っており、別の業者の参入は難しい状況だと思う。

構成員：儲ければ入ってくるが、基本的に儲かっていないから入ってこないのではないかと。本州でたくさん路線が入っているのは、利益が見込めるからだ。現状では、路線バス業者は相当苦労していると思う。その中で参入というのはなかなか難しい気はする。

構成員：将来的に公共交通のあり方を考えていくときに、このままで良いのかと考える。

座長：高齢化社会が進み、高齢者になって運転免許証を返納したときに、バス停はあるがダイヤは1時間に1~2本、1日に6本程では移動できない。JRの駅の近くの方は良いが、少し離れている方が不便を感じないようにしなければ暮らしづらい。

構成員：地方では移住すると、周りから受け入れてもらえないというのをよく聞く。もし空き家が多い地域があるのであれば、そこをリノベーションして、移住したい人のために活用するのも良い。

空き地は自宅の周りにも多く、雑草を1年に1回刈りに来るといふ土地もあり、使われていない土地が多い。東京の方や地元の人ではない方の土地がかなりあり、もう少し活用できる土地があるのではないかと。

構成員：自宅の隣の空き家に、大阪から別荘として夏場のみ住む方が来たが、町内会費は1年分支払っていただいている。北広島市は別荘地として便利だと思っていらっしゃる方もいて、なるほどと思った。

町内会は高齢者が多かったが、若い方がたくさん入ってきたので、以前のように公園でイベントを始めた。和気あいあいとした大変賑やかなお祭りになり、ジンギスカンパーティーや若い方たちの御紹介をした。次の町内会長を思い切って若い人をお願いしたところ、引き受けていただけて、今一生懸命活発にやっている。若い人を我々古い住民も受け入れる気持ちがあれば、これからの北広島市を変えていくことができないのではないかと諦めないでほしい。

ごみ処理について、わかりやすさの改善は必要であるが、分別が細かい町はきれいになっている。物事をきちっと分けると、色々なものをきちっと分けられる。消費者協会では、小学校で出前講座として授業を行っているが、市でももっと活用して使っていただければと思う。食品ロスについて、市ではデジタルサイネージで広告を出しているが、子どもに教えるのが一番で、家庭でもお母さんが子どもから言われたと、お母さん方がしっかりと変わっていく。

防犯について、各町内会に防犯協会をつくるよう市でも予算をつけているが、大変重要なものであり、できていない町内会も進めていっていただきたい。また、消費者被害のネットワークが全道で68できているが、北広島市にはなく、ぜひネットワークをつくっていただいて、被害に遭わないように頑張っていければと思う。

構成員：自身の町内会では町内会の役員を1年ごとに全部変えており、変えることによって、同じ町内の住民の顔や住んでいる家など全部わかるようになった。また、年に3回、果物狩りや温泉旅行に行くことも行っている。

座長：出ていないテーマが上下水道の話であるが、出ないということは今の状態が良いのだと思う。災害に強い、森林や川などの自然環境の保全、大気汚染、水質保全等について、昨年、一昨年、凄い台風や集中豪雨が起き、地球温暖化というものが我々の生活に目に見える形で災害を起こし始めていて、これまでの北海道では考えられない滝のような雨が降るような状況にもなっている。災害対策についても、過去の経験を基に、より対策をされていく必要がある。

## (2) 保健・医療・福祉分野

座長：次は、2番目の保健・医療・福祉分野というところに入っていく。御意見をいただきたい。

構成員：子どもの医療費の助成が充実していることを実感している。それを知って転入された方もいると聞いた。

子どもが放課後に遊ぶ場所について、札幌市のような児童会館が北広島市でもあると良いという声があり、大曲には夢プラザにあるが、近くに住む子に現実的に限られている。もう少し学区内で、雨天時等に遊びに行けるミニ児童会館や児童会館が欲しい。結局は、家で

ゲームをしてしまう。

事務局：札幌市のように町内単位に児童会館はない。範囲が広い状況だ。広葉小学校の跡と大曲と西部地区にもあるが、西の里地区にはない。西部は、児童センターと学童が一緒になっている。

構成員：東共栄の男の子が、勉強したくても施設がなく、花ホールまで行っていると言っていた。

構成員：病院はどうしても札幌に行ってしまう。もっと近くに病院があることを周知できれば、もっと利用できると感じる。

座長：病院に関して、例えば大曲であれば、北広島駅付近に行くより清田区の方が病院が多くて使いやすい。また、西の里であれば、新札幌に行く方が近く、便利である。住民は、利用できればどこの病院を使っても良いと思っていると思う。

構成員：北広島市には産婦人科がない。市も誘致を図るために制度をつくり、お医者さん呼び込もうと努力はしている。

構成員：総合計画の策定に当たって、特に重点を置いてほしいところは、健康づくりを推進する体制の充実で、医療機関にお世話になる前の、頭、心の健康寿命をいかに延ばしていくかを考えたまちづくりが、北広島市の健康まちづくりの骨格になると考える。したがって、高齢化が進んでいるこのまちにおいては、65歳以上の高齢者がいかに健康的に過ごせるか、セミナーやエクササイズ等による高齢者同士の交流、あるいは子どもたちを交えた交流、そういったものを総合計画策定の中に組み入れて仕掛けをつくり、具体的に動いていくことが、非常に大切だと思う。

構成員：高齢者と呼ばれるのは65歳からだが、65歳は高齢者なのかという議論もある。元気なお年寄りが今後も増えていく中で、サービス部門や施設の充実、アクティブシニア等、様々な部分で活躍していただくべき年代であり、その辺をもう少し明記いただきたい。

構成員：消費者協会の中で、100歳時代をどう生きるかということで、昨年度アンケートをとったが、60歳、70歳は年をとったとは思っていない。もっと元気なお年寄りの方の活用を考えていくと良い。

構成員：キーワードはCCRCだと思う。Continuing Care Retirement Communityを実践している自治体は多い。70歳になっても年寄りではない。三浦雄一郎さんみたいに86~87歳になっても色々していくという健康づくり。これはCCRCの概念であり、策定の中のキーワードに入れてほしい。

構成員：特別支援教育の支援をしており、現在はノーマライゼーションといって、支援学

級か普通学級に通うかを選択できる。北広島市の特別支援教育は進んでいると思う。北海道内の市町村から北広島市の学校の特別支援教育を見学に来られ、北広島市を選ぶ方もいる。北広島市は力を入れているので、今後も充実してくれたら良い。

事務局：北広島市では普通の小学校で受け入れることを基本にしており、通常はどこかの学校に集中させる形をとるが、全小中学校に地域で受け入れる体制を取っているというのが実は特徴的なところだ。

構成員：全部の小中学校に支援学級があるということを、他の地域の方が驚かれています、他では支援学級に入りなさいと言われたら転校しなければいけない。お友達と離れたくないと泣いて悩んでいる子にもあったことがあるが、全部の学校にあるというのは恵まれている。宣伝したほうが良い。

構成員：高齢者が安心して暮らせる社会の形成について、独居老人、孤立を防ぐという部分はあるが、終末をどうするかという話も出てくる。成年後見制度の活用や、最期のお見送りをどうするかということも課題になっている事案だ。ある一定のところまではサービスはできるが、最期の最期の部分があり、その展開を今後どうしていくかということも考えていただければと思う。

座長：特に家族がいない独居老人に関しては、最期を見届ける体制が今はうまくできていないということになるか。

構成員：誰が見送るかという部分も、はっきり言うと確立はしていない。

構成員：高齢者が安心して暮らせる社会の形成というのは、最期を迎えた後のことも心配の一つだ。残った家族がしっかり暮らせるように考えることも、生きていく上ではストレスになる。社会福祉協議会等でもう一步話ができる環境があると良い。

座長：北広島市は、独居老人に電話をかける等の仕組みはないのか。

構成員：社会福祉協議会が行っている。

構成員：行政上、福祉とコミュニティーと別のつながりになっているが、独居老人に対する在宅の部分のサービスはある程度行っている。ただ、死後となるとまた異なる。我々の事務というのは、死亡の段階で事務は終わってしまう。その先は誰の判断でどうするかということになり、そこをもう少し整理させて話をしていかなければならない。

構成員：町内会としては独居老人や御夫婦でも、高齢の御家庭はなるべく把握し、声かけをする等の努力をしているが、プライバシーの問題等なかなか難しい面もある。向こう三軒両隣の精神でやっていくより仕方がない。

### (3) 教育・文化・スポーツ分野

座長：3番目の教育・文化・スポーツ分野について、御意見をいただきたい。

構成員：大学等との連携活動について、星槎道都大学は商工会と連携協定を締結していた  
だいており、大学誘致で苦勞している自治体がある中、大学があるというのは大変ありがたい。

東京の神田の再開発の事業で、タワーマンションと商業施設のビルを建てたが、そのタ  
ワーマンションの最上階に、通常ワンルームで10数万円する家賃のところ、7~8万円で学  
生に住んでもらい、家賃を安くする条件として、年に数回、町内活動や地域の活動に参加し  
てもらっている。例えば北広島市で、アパートの家賃が3~5万円の間だと思うが、これを  
1~2万円の補助をして学生に地域に住んでもらい、その代わりに地域のコミュニティー活  
動に参加してもらおうと、1人1万円であれば100人で100万円かかるが、対投資効果とし  
ては割高な補助ではない。100人、200人と学生に住んでいただき、地域に関わってもらおうと、  
学生の考え方が少し変わってきてくれるのではないか。

座長：自身の大学でも地域に学生が出向き、住民と交流することで学習させようとい  
うことを単位化している。学生には、自主的に行うようにも働きかけているが、学生自身がど  
うして良いかわからない状況である。そのため、全部学校で用意してあげなければいけないと  
ころであるが、地域コミュニティーに参加するだけで単位がもらえるということにもなり、  
非常におもしろい。

また、アルバイトの件について、留学生がアルバイトでススキノに行ってしまうことがあ  
る。例えば、北広島市に工場やお店があれば、商用の実践や工場での技術的なものを学ぶよ  
うなアルバイトがあると良い。商工会ともカリキュラムを立ち上げて、お互いに良いとこ取  
りができるような仕組みができれば良い。

構成員：上野幌駅に張り出していた広告を見たが、高校生への通学費補助は北広島市民以  
外も対象か。補助の内容について詳しく書かれていなかった。

事務局：北広島市に住んでいる方に対する補助である。

事務局)：子どもは小学校、中学生の医療費を含めて施策があり、大学生には引っ越しの  
助成等があるが、高校生には施策がなく、一方で、札幌圏に通っている生徒数は7割以上い  
る。そういったことに対し、通学費助成事業を今年度から始めた。

構成員：学校を大規模改修していただき、トイレが温水便座になり、随分充実してきたが、  
改修済みと未改修のところの差が凄い。広葉中、緑陽中の生徒数が少なくなり、小学校1年  
生から中学校3年生まで各1クラスというのは、子どもにとって苦しいことだと思う。確  
かに通学距離が遠くなってしまうのは大変ではあるが、合併は避けられないのではないかと  
保護者の間でも話は出ている。部活動もできないし、体育祭、文化祭で対抗する相手のチ  
ームがない。友人トラブルがあったときに、クラス替えできる人数がない。大事なことは  
教育であり、学校を合併した方が良い。



構成員：西の里のスクールバスは小学校だけで、中学校は 10 キロの荷物を担いで 3 キロ歩いている。

事務局：学校に関しては、適正規模を含めた配置をこれから考えていく。

構成員：もっと大事なことは、当市における教育の質をどうやって充実させるか。人を育てなければまちは良くなり、北海道も良ならない。ぜひ、総合計画の中で教育の質をいかに高め、充実させるかを考えていく必要が大いにある。英語教育について、当市もボールパークができたなら外国のお客さんがたくさんいらっしゃる。英語教師、ALT (Assistant Language Teacher) を増やしていかないと質が高まらないと思う。

事務局：英語教育の充実から、今回 2 名増やした。

構成員：子どものうちから英語がどれだけ大事かを伝えていくというのも重要。

構成員：平成 32 年度から学習指導要領が新しくなり、英語の授業の時間が増える。ALT が増やされ、3 年生、4 年生にも英語を教えなければいけない。

構成員：6 年間も英語を学んだのに話せない。今年の春からバスの定期観光もポケトークが導入されるが、外国の方とコミュニケーションをとるには英語が大事だ。

構成員：韓国のソウルの近くに英語村というのがあり、英語オンリーで生活している。北広島市に英語村をつくってみたい。生涯学習にもなる。

構成員：文化、芸術等に親しむ機会の充実の部分で、ボールパークに関連する課題として、シーズンオフの活用とあり、ぜひ力を入れていただきたい。生涯学習についても、高齢者が増えてくるため充実していただきたく、市の補助も幅広いものにしてほしい。

座長：年金生活者にとっては、会場代で数千円と言われると払えないという話を聞いたことがあるので、そういったものへの補助があると良いのではないかと。

構成員：広報等で生涯学習の協会の方や様々な機関の方の企画を見るが、参加率が上がらない理由は何だろうか。市で考えていることや教室、子ども食堂等多くあるが、参加している人は十分元気で、やる気があるから出てくる。しかし、実際に来てほしい人は家でじっとして、行く気力がなかなか出ない。一人にいる子ども、一人にいるお年寄りに来てもらうにはどうしたら良いか。

座長：町内会の回覧板は、働いている人にとってはなかなか見づらいものである。また、イベント等が 2 か月先と言われると、予定が空いている確証もなく、結局申し込まないということもある。今は、インターネットの時代だが、スマホ等を使って、明日、明後日の近い

タイミングで予約できるものがあつたら良い。

構成員：スマホも使っていないようなお年寄りや、両親がずっと働いていて子どもは一人、家でゲームしているような人に情報が届かない。

座長：近隣に情報の集積場所等があつて、そこに行けば必ず見ることができるような街角掲示板などどうか。東北のあるまちでお話をさせていただく機会があり、コミュニティーセンターの方の話では、生涯学習として、踊りや生け花、囲碁といった昔のスタイルで行われていた。清田の地区センターで人気があつたのは、プロのコーヒー職人によるおいしいコーヒーの入れ方を教えてもらえる講座だそう。求めている人たち、現代の高齢者などのそういった感覚を理解する必要がある。

構成員：高齢者を引っ張り出すための運動は確かに課題だ。我々は見守りという部分をやっているが、どうやって社会に参加していただくかは今後の課題として国も認識はしている。新たなプランを出して方針を立てているが、現実には、周りの人との付き合いが一番重要だ。そこをどう醸成していくのかが一番の課題であり、地域の祭りでも、引っ張り出すという仕組みが必要かと感じる。

座長：スマホ等が使えないというお年寄りに対し、古い時代の、デジタル化される前の通信手段を残しておいてあげなければいけない。スマホ等を使うお年寄りはアクティブになる傾向があり、そういった方々にももっと普及活動をしていかなければいけない。消費者協会としては、騙されないような活動もしなければいけない。

私自身は、シニアパソコン大学で13年教えているが、毎年40人ぐらい、60歳を超えた方が来ており、そこで触れ合ううちに、インターネットに対する心の壁がなくなり、スマホを買う方が増えている。特に最近の傾向は、違和感なくコンピューターやスマホを使う方も増えており、これからそういった方を町内会や地域のコミュニティー、生涯学習の核に据えていけば、情報伝達の面では改善されていくと思う。

構成員：今後、決済が電子マネーになり、どんどん変わっていくため、理解していただくことが非常に重要だ。ただ、一定の年齢以下の人からスタートする形にならざるを得ない気はする。

構成員：成人年齢が18歳に引き下げとなり、消費者教育の充実を図っていきたい。保険や年金等、社会常識は教えられずに社会に出てしまっている部分もある。消費者教育は、段階によってプログラムがある。

学校給食について、食育に関連して北広島市は地場産のものを使って、メニューも充実しているが、もっと充実させていただければなと思う。

構成員：江別での大学生活では、社会福祉系を勉強し、ゼミで自治体に入り込み、自治体の活動に参加していた。若い人が来てくれたと凄く喜んでくれて、雰囲気も良く活発になっていたようだ。せっかく北広島市も大学があるのだから、学生がどんどん地域に出ていった

ら変わると思う。

構成員：教育に関連し、高校の同期に教師が多く、その中の話では文科省のカリキュラムが崩壊している状態で、土曜日が休みになってから、授業がいっぱいであり、提出する資料も多く、時間が費やされている状況だということだ。英語の授業も小学生から始まるが、時間がないため、他の授業を潰していかないと新しい英語の授業ができない。これ以上、皆さんの思いがある教育をしていくとなると、教育特区として独自のカリキュラムや教育方針ができるようなものをしていかないと無理なのではないか。

交通関係について、バスの便数は減っていく傾向にある。バス会社も経営があり、採算の悪いところは削っていくだろう。人手不足で運転手もいない。本州では、商店街がお金を出してミニバスを運営し、自分達でお客様の利便性を確保しているところがある。また、交通特区として白タクをそのエリアだけ認め、リタイアされた方等が山間部から都心部へ送迎をお手伝いしている状況だ。道営団地の奥の方を考えた場合、単純にバス会社では採算が合わないと思うので、バスの車体の変更により経費がかからない運営の検討や、交通特区による交通形態等、独自の形態を検討する必要がある。

#### 4 次回の意見交換分野について

座長：(連絡)

#### 5 その他

事務局：(次回は5月10日開催)

#### 6 閉会

座長：(閉会)

以上